

☆8月26日（火） 兵庫県姫路市 「校内サポートルーム」について

全国的に不登校傾向の児童生徒が増えている中、姫路市においては「心の居場所」として、小中学校の余剰教室を改修して家庭的な雰囲気を持つ教室づくりを進め、児童生徒の教室復帰に取り組んでいます。

現在小学校51校、中学校35校に設置され校舎の耐震化改修時に増設をするようにしている。

成果としては、学校に全く登校できなかった生徒が校内サポートルームを利用することで学校に登校できるようになった。リモート授業を受ける事で不登校生徒が教室の雰囲気を知り、教室に入ることができたり、給食を一緒に食べられたりするようになったなどの成果が出ている。サポートルームは不登校対応の教諭と不登校児童生徒支援員で対応しており利用する児童生徒に対して、個に応じたより柔軟できめ細やかな支援の充実に努めている。

課題としては、登校できる生徒が増えたことは喜ばしいが、静かに過ごしたい人とコミュニケーションを取りたい人とのすみ分けや利用は一日中できるが支援員が午前中の勤務のため対応できる教員が足りない場合がある。事業としては、単独の予算と県からの補助金をうまく組み合わせて実施している。

また、合わせて姫路市こども計画「ひめじ こども・若者みらいプラン」の説明も受けました。

大分市においても各種施策で不登校児童生徒対策に力を入れています、フリースクールなどもあります。行政として不登校児童生徒に寄り添う取り組みとして校内サポートルームのような政策も調査研究をすすめていく必要があります。

☆8月27日（水） 静岡県浜松市 「ドローン専用航路」について

全国的に人口減少が進む中、国のデジタルライフライン全国総合整備計画におけるアーリーハーベストプロジェクト（2024年度からの実装に向けた支援策）の一環でドローン航路180km以上の整備、そのロールモデルとして先行地域に埼玉県秩父市とともに浜松市天竜川水系上空が設定された。

ドローンについては、最近では災害対応などで現場の撮影や物品搬送に利用されていますが、道路や住宅地の上空は飛行できず航空機やヘリコプター、自衛隊との調整など法的制約が大きく実用化には大きな課題があります。

浜松市では、ユースケースとして物流・災害対応・インフラ点検を掲げ飛行に極力影響の少ない天竜川水系上空で、①平時にドローン航路を構築②人口減少下において協調領域を構築することで生活サービスを維持③ドローンやAI等の活用によりインフラ管理を効率化・高度化を目標に事業をスタートさせました。ユースケース①として中山間地域におけるドローン医薬品配送、ユースケース②河川点検などで実践とデータ収集を行っています。

現在の課題としては、ドローン航路の認知度の低さ、人命救助など消防ヘリは低空飛行を行うため調整、ドローンの性能や価格、航路の制約などがあげられています。課題はあるものの、基本的に障害物の少ない空という空間を飛行するということで、利用方法は無限大に広がる可能性があることから、大分市においても大分川、大野川の一級河川上に航路を構築することも可能だと考えられるので他都市の状況を注視しつつ調査研究を進めて行く必要があると感じました。